まちかどエッセー

高橋　由佳

コミュニケーション

東北三大祭りは終わりますが、これからも各地で夏祭りが開かれることでしょう。藩制時代から受け継がれた仙台七夕、大正時代から続く石巻川開き祭りのように、先人の知恵が多く詰まった祭りも少なくありません。まちの歴史の中で偉業を遂げた人々の姿や、日本人の「生きる力」を感じるものばかりです。

例えば、石巻川開き祭りは江戸時代、北上川河口の改修に力を注ぎ石巻発展の礎を築いた川村孫兵衛の偉業をたたえ、水難事故で亡くなった人の霊を弔うために始まりました。

今の仙台七夕まつりは1927（昭和2）年、不景気を吹き飛ばそうと、商家の有志が華やかな七夕飾りを復活させたことに始まります。

七夕の七つの飾りには、それぞれの意味があることを知りました。短冊は、書の上達を願うものだとか。吹き流しの中をくぐって歩いた子どもの頃を思い出します。

近頃は「コミュニケーション力」を身に付けるためのさまざまな研修やプログラムがありますが、お祭りの準備を協働で行うこと自体が、自然派生的にコミュニケーションの練習になっているようです。

私たちの団体でも、就職活動中の皆さんと一緒に七夕飾りを作りました。

短冊にどんな願いを書くかを話し合ったり、吹き流しはどんなのがいいかみんなで考えたり。何げない日常の中にこそ、コミュニケーションを学ぶ場があり、そっと見守る温かい人々が居ることが、自然と心に安堵（あんど）感をもたらすのだと感じます。

最近のコミュニケーションツールの一つといえば、「ポケモンGO」なのでしょうか。実は、私もちょっとだけやってみたのですが、若いみんながいろいろと教えにきてくれます。

こんなに話せるんだね、と思うほど笑顔いっぱいで、びっくりすると同時に、こちらもうれしくて会話が弾みます。賛否両論あるツールですが、あふれるような笑顔を見るとそんな時論を忘れるほど気持ちが傾いてしまいます。

（認定NPO法人Switch理事長）